

平成27年度図書館評価（実績報告）

湖南省立図書館

図書館評価について

公立図書館が、何を目的としてどのような運営をし、結果はどうであったかといった情報を、市民に分かりやすい形で公開し、図書館の望ましい姿や課題を市民と共有して、運営の改善を図ることは、大切なことです。平成 20（2008）年の図書館法改正により、公立図書館は運営の状況について評価を行い、その結果に基づき運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないことになりました。また、運営状況に関する情報を積極的に提供するよう努めることが求められています。

湖南市立図書館では、他の市の図書館評価や、湖南市立図書館の事業方針を参考に、評価項目及び指標を決定し、それをもとに、図書館で内部評価を行い、図書館協議会の皆さんに外部評価をいただき図書館評価を作成しました。これまで、湖南市立図書館では、利用状況や事業展開等、運営状況の報告を公開してきましたが、これだけではなく図書館評価という形で、図書館の運営がどうであったのか結果を公表します。

《参考資料》

●『図書館法』（平成 20 年 6 月 11 日法律第 59 号 改正）

第 7 条の 3（運営の状況に関する評価等）

図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

第 7 条の 4（運営の状況に関する情報の提供）

図書館は、当該図書館の図書館奉仕に関する地域住民その他関係者の理解を深めるとともに、それらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供しなければならない。

●『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』（平成 13 年 7 月 18 日文部科学省告示）

（3）図書館サービスの計画的実施及び自己評価等

① 公立図書館は、そのサービスの水準の向上を図り、当該図書館の目的及び社会的使命を達成するため、その図書館サービスについて、各々適切な「指標」を選定するとともに、これらに係る「数値目標」を設定し、その達成に向けて計画的にこれを行うよう努めなければならない。

② 公立図書館は、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、前項の「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を住民に公表するよう努めなければならない。

内容	評価指標	H27 年度実績	H27 年度目標値	H26 年度実績	H25 年度実績	H24 年度実績
(1)図書資料等の整備と整理 および利用促進	① 購入図書冊数 (冊)	11,069	11,575	11,575	11,568	11,638
	② 蔵書数 (冊)	358,404	352,000	352,786	350,913	350,727
	③ 年間貸出冊数 (冊)	440,624	450,700	445,687	468,737	481,631
	④ 実利用 (貸出) 者数 (人)	10,929	11,107	11,009	11,491	11,889
	⑤ ※新規登録者数 (人) (累積登録者数)	1,310 (34,562)	1,230 (33,252)	1,024 (33,046)	1,352 (31,842)	1,370 (30,490)
	⑥ 実質登録率 (%)	20.1	20.3	20.1	20.9	21.5
	⑦ ※市民一人当たりの貸出冊数 (冊)	8.0	9.1	8.1	8.5	8.7
	⑧ 予約件数 (件)	19,338	18,900	18,544	18,198	19,816
	・うちweb予約件数 (件)	8,862	8,800	8,694	8,473	9,053
	⑨ ※問い合わせ件数 (件)	5,503	5,200	4,988	5,166	4,595
	・うちレファレンス【注1】件数 (件)	403	600	593	484	491
(2)利用に応じたサービスの 充実	⑩ ※児童一人当たりの児童書の貸出冊数 (冊)	20.3	22.0	19.9	21.1	20.9
	⑪ ※おはなし会参加人数 (人)	1,217	1,000	995	978	828
	⑫ 学校協力貸出冊数 (冊)	1,506	1,150	1,120	1,017	1,360
	⑬ ブックトーク【注2】件数 (件)	9	20	19	27	18
	⑭ ボランティア人数 (人)	79	82	81	81	82
	⑮ 特設コーナー設置件数 (件)	129	130	126	128	110

※の項目は総合計画や教育振興基本計画により目標値が既に定まっている項目。

(1) 図書資料等の整備と整理および利用促進

サービス内容	H27年度取り組み内容とその成果	サービス指標	内部評価	H27年度実績	達成率	H27年度目標値	H26年度実績
<p>新鮮かつ魅力ある蔵書内容維持のため、資料を更新し計画的な除籍を進めます。</p> <p>行政資料、郷土資料の収集、保存を強化します。</p> <p>貸出・予約サービスを重視し、利用しやすい市民に親しまれるカウンター対応に努めます。</p> <p>移動図書館車の活用を行うとともに、なるべくいずれかの図書館が利用できるようにします。</p>	<p>図書予算は26年度と横ばいだったが、27年度の購入単価が上がったため購入図書冊数の目標値を達成できなかった。</p> <p>購入冊数に比べ除籍冊数が大幅に少なく、蔵書数が増加した。</p> <p>引き続き行政資料、郷土資料を積極的に収集、保存した。</p> <p>予約・問合せ件数とも増加したが、年間貸出冊数は26年度の実績に及ばなかった。</p> <p>新しく図書館の職員となった人には司書と組になりカウンターに入り指導するなど、スキルの向上を目指した。</p> <p>図書館に親しみを持ってもらうための図書館祭や、市民が主体となり開催するビブリオバトル【注3】を継続するなど効果的な集会行事となるよう心掛けた。</p> <p>市民の高齢化に対応し、移動図書館の地域巡回の継続と大活字本・録音図書の収集を引き続き行った。</p> <p>スマートフォン向けのHPはコンピュータの更新時期が延びたため対応できなかった。図書館HPや市のフェイスブックを通じての情報発信を引き続き行った。</p>	①購入図書冊数(冊)	I	11,069	95.6	11,575	11,575
		②蔵書数(冊)	I	358,404	101.8	352,000	352,786
		③年間貸出冊数(冊)	I	440,624	97.8	450,700	445,687
		④実利用(貸出)者数(人)※	I	10,929	98.4	11,107	11,009
		⑤新規登録者数(人)	I	1,310	106.5	1,230	1,024
		⑥実質登録率(%) ※	I	20.1	99.0	20.3	20.1
		⑦市民一人当たりの貸出冊数(冊)	III	8.0	87.9	9.1	8.1
		⑧予約件数(件)	I	19,338	102.3	18,900	18,544
		・うちweb予約件数(件)	I	8,862	100.7	8,800	8,694
		⑨問い合わせ件数(件)	I	5,503	105.8	5,200	4,988
		・うちレファレンス件数(件)	IV	403	67.1	600	593
		※実利用(貸出)者数 1年間に1冊以上本を借りた人の人数。同じ利用者が1年間に何回利用しても1人と数えられる。 ※実質登録率 湖南市の人口の内、1年間に図書館で1冊以上本を借りた人の割合。					

<p>内 部 評 価</p>	<p>○全体評価 II</p> <p>○成果と課題</p> <p>【蔵書冊数について】 (課題) 除籍が滞りがちで、書庫管理が保たれていないので計画的な除籍が必要である。</p> <p>【貸出冊数について】 (成果) 予約・問合せ件数は増えている。 (課題) 貸出冊数の増加に結びついていないため、予約・問合せの内容が蔵書内容に反映されるようにしたい。</p> <p>【新職員の指導・研修について】 (課題) 新しく図書館職員となった人にもカウンター業務の戦力となってもらえるよう、司書による指導や研修に参加する機会を充実することが必要である。</p>	<p>外 部 評 価</p>	<p>○全体評価 II</p> <p>○図書館協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年後の甲西館と石部館のあるべき蔵書構成を想定した上で、1年ごとにそれに近づけるように計画的に除籍を進めてください。 ・近い将来の庁舎移転、建て替えの複合施設に甲西館が入る場合には、現在の機能（貸出業務および利用者サービスの双方）を確保しつつ、人・モノ・金の観点から、職員全員で相談して取り組んでいただきたい。まず公共図書館が担うミッションのグランドデザインの策定と整理が早急に必要である。 ・未だ図書館に足を運んでいない住民に利用してもらうための原因解析と、市民・利用者の知的好奇心を満たす対策を職員全員で相談して取り組んでいただきたい。そのためには湖南市特有の理由、社会環境による理由などの多面的な観点、利用者の年齢構成を踏まえた観点からお願いしたい。 ・市民の関心・要望を拾い上げ、それに沿った特色のある図書館づくりをしていただきたい。(例えば、滋賀県下には医療をテーマにした図書館もある。)
----------------------------	---	----------------------------	---

I：目標値に対して達成率 90%以上。

II：前年度より低下していないが、達成率は 70～90%。

III：前年度より低下していて達成率が 70～90%。

IV：前年度より低下していて達成率 70%未満。

(2) 利用に応じたサービスの充実

サービス内容	H27年度取り組み内容とその成果	サービス指標	内部評価	H27年度実績	達成率	H27年度目標値	H26年度実績
①児童サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮で魅力的な児童書を提供するために計画的に収集に努めるとともに、普段目のふれない児童書の情報発信を図るために特設コーナーを設置した。 ・お話会、人形劇、ポイントラリーを継続して開催するとともに、乳幼児健診での啓発事業を引き続き行うことにより、本に親しむ場を設けた。 ・幼稚園や保育園へ、読み聞かせ用の絵本のセット貸出を行った。 	⑩児童一人当たりの児童書の貸出冊数(冊)	A	20.3	92.3	22.0	19.94
		⑪おはなし会参加人数(人)	A	1,217	121.7	1,000	995
②学校および学校図書館との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課と連携して学校図書館への協力貸出を行うとともに、移動図書館による本の貸出、学校でのブックトーク、先生や学校図書館ボランティア向けの講座への講師派遣などを実施した。 ・学校を通して夏休み向けのブックリストを全児童に配布した。 	⑫学校協力貸出冊数(冊)	A	1,506	131	1,150	1,120
		⑬ブックトーク件数(件)	C	9	45	20	19
③高齢者、障がい者、多文化共生サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大活字本やCDブックの収集・提供、朗読ボランティアによる「声の広報こなん」などの提供を継続して行った。 ・地域創生推進課、国際協会と協働して、外国人、日本人市民が共にスペイン語・ポルトガル語を学ぶ国際文化教室を図書館で開講するとともに、洋書コーナーの資料 		A				

	や日本語学習の資料を積極的に収集することにより、外国語資料や日本語学習の本がよく利用されるようになった。						
④集会行事等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土ゆかりの河野裕子さん、田村一二さんの集会行事を行うとともに、湖南省・滋賀県地域に関連した講演会や展示会を開催した。 ・他のまちづくり協議会の参考となるよう各まちづくり協議会の会報を収集するとともに、地域資料・行政資料の充実にも努めた。 		A				
⑤学習の成果を生かしたボランティアとの協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとの協働を継続するため、朗読ボランティア講座を開催し、後継者の育成を図った。 ・ボランティアに協力しておはなし会や人形劇を開催した。 ・昨年度 26 年度から開始した市民主体の実行委員会形式で企画・運営されるビブリオバトルを引き続き共同開催した。 	⑭ボランティア人数 (人)	A	79	96.3	82	81
⑥庁内各部署との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課と連携し、「親子プレイステーション」を図書館で開催し、絵本を読む楽しさを紹介した。 ・人権教育課と連携し、図書館で啓発映画会を開催したが、参加者が少なく 28 年度からは違った形での開催を検討することになった。 ・議会事務局と連携し議員に対するレファ 		B				

	レンスサービスを行った。						
⑦地域住民の課題に対応したサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・予約本や市民とのカウンターでの対応などにより、市民のニーズを把握し資料の収集に反映させた。 ・資料の特設コーナーを設置し、市民の関心に応じた資料をその都度集めて提供した。 ・企業内人権問題研修向けに人権研修の教材として役立つ図書のリストなど、目的別のブックリストを作成した。 ・新しく湖南省市に来られた方に、地域創生推進課を通して利用案内や開館日カレンダーを配布した。 ・郷土資料コーナーでは表紙見せで資料の情報発信をしたが、テーマ展示は行わなかった。 	⑮特設コーナー設置 件数（件）	A	129	99.2	130	126
内 部 評 価	<p>○全体評価 A</p> <p>○成果と課題</p> <p>【学校図書館との連携について】 (現状) 学校教育課との連携で進めている学校図書館支援センター事業における学校間の資料の流通が充実してきた。 (課題) より高度な調べ学習を求め学校協力貸出冊数は増えているため、さらなる対応が必要である。</p> <p>【園児・保護者向けサービスの充実について】 (成果) 幼稚園、保育園向けの読み聞かせ用図書のセット貸出を行う</p>	外 部 評 価	<p>○全体評価 A</p> <p>○図書館協議会から意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入者に対しては、利用案内・開館カレンダーなどの通り一遍の資料だけでなく、「どこにあるのか？コミュニティバスめぐるくんでどのように行けばいいのか？」など図書館をのぞいてみたくなる資料を作成できないか？ ・図書館内の掲示物・プレートなどで、開館以来のままで汚れたり読みにくくなっているものについては、作り直す対応していただきたい。その際には利用者の高齢化に対応して文字を大きめにお願いしたい。 				

<p>ことにより、司書が選書した図書を園児に提供することができるようになった。</p> <p>(課題) ブックスタートの次の段階の保護者向けの啓発が課題である。</p> <p>【児童サービスの充実について】</p> <p>(成果) お話会の参加人数が増加、ポイントラリーが定着してきた。</p> <p>(課題) 児童向けの集会行事が児童貸出冊数に反映されるようにしたい。</p> <p>【図書館の周知について】</p> <p>(成果) 新しく湖南省市に来られた方に地域創生推進課を通して利用案内や開館日カレンダーを配布したり、広報、集会行事などで図書館の周知を行っている。</p> <p>(課題) 図書館がどこにあるか知らない方がいるなど認知度は高いとはいえないので、さらに PR に努める必要がある。</p> <p>【学校向けのブックトークについて】</p> <p>(現状) ブックトークについては平成27年度の実績が9件で内部評価がC評価となっているが、平成27年度に学校司書による学習支援として35件行われている。</p> <p>(課題) 図書館としては授業とは別に読書の楽しさを広げていったり、ブックトークの意義を学校側に広めることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的別のブックリストを増やしてほしい。置き場所も検討していただきたい。 ・小学校・保育所向けの移動図書館車の使命は重要なので今後も回数を減らさず対応していただきたい。しかし小学校や保育所で活発なところと、そうでないところの温度差があると聞いている。せつくなのだから、受け入れ側の学校側でもしっかり対応していただけるよう、教育部にお願いしたい。 ・ポイントラリーは小学生・中学生の読書意欲の向上と、幼児の保護者に対して図書館の利用促進を図るのに有用である。 ・職員の多忙化に対応するには、本のリサイクルの準備、集会行事の椅子並べなどをサポーターに協力を要請してはどうか？他にどんな作業が実現可能か検討すべき。県下の事例を調べてください。 ・司書が学校に対して行う読書指導は有意義であり、今後もさらに進めていただきたい。ただ、その手法としてブックトークだけにこだわるのではなく、ビブリオバトルやアニメーション【注4】、読書ゆうびん【注5】など、様々な方法で読書に誘っていただけることを学校に提案していただきたい。 <p>(注1)</p>
---	---

- 評価基準 A：計画通りに実施でき、成果があった。
- B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。
- C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

なお、数値目標のあるものは、以下のとおり。

評価基準 A：達成率 90%以上。

B：達成率 70%～90%未満。

C：達成率 70%未満

※脚注

【注1】レファレンス：利用者の求めに応じて、図書館職員が調査・研究に必要な本の紹介や資料の検索・提供の手助けなどを行うこと。

【注2】ブックトーク：ひとつのテーマに沿って、何冊かの本をいろいろな角度から紹介し、本の楽しさを知ってもらうための手法。

【注3】ビブリオバトル：「知的書評合戦」とも呼ばれる。各自が紹介したい本を1冊持ち寄り、5分間で紹介、一番読みたいと思った本を参加者全員が投票し「チャンプ本」を決める本の紹介コミュニケーションゲーム。

【注4】アニメーション：アニメーションとは活性化の意味で、遊びの要素を取り入れたスタイルで、楽しく読書体験を積みながら子どもの読む力を引き出し、「読める人」へと育っていくようにプログラムされた読書教育法。

【注5】読書ゆうびん：自分が読んでおもしろかった本を絵と文章ではがきに書いて読んでほしい人に送るもの。